

東日記

慶長三年
至十五年

三三九	三二六	三	六
號	函	架	冊
類			

和書門

第二百八十函

三三九	三二六	三	六
號	函	架	冊
類			

和書門

徳川家達獻本

内閣文庫	
番號	和 33129
冊數	(1)
函號	150 81

共六



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

東日記

一



東日記第一

一慶長三戌年ヨリ太閤秀吉云伏見ノ城ヲ取ル例ニ於テ

六月十二日ノ夜門七月十二日ノ夜行事有ハシラシテ右ノ

伏見中務勅セリ御家ノ内井伊左衛門少輔忠政柳宗三郎

古備康政少中務少輔忠勝水部卿守忠重号ノ夜ノ

危敷佐有ノ不居合多ク少輔忠政計友等ヨリ駭惑伏見

門府柳秀忠云御又子孫ノ御身是レ御身曰ク何ノ

務勅ケルリ其本ノ御言上一任ノ由上意ト云ク

一月年八月十九日秀忠云後東ノ御駕

一昨十八日大閤薨御此儀誤答ニ偏シ御例大事ト計中

故門府云モ云ルハ許シ言沙也城ノ如石田治兵衛

八十侍ト云侍ノ使者月大閤秀吉云御薨逝ノ由御

外刻清飯城有テ曰日夕社徳家之徳家清飯城守所改
常ク清相ニ告テ亦不事言ニ成却テ外ノ下
上ニ云テ石田ノ御威ト云

一 慶長四年正月十日大岡江御遠言有テ大坂城清飯
ノ所加テ大納之利家其外大谷連徳守門府標ノ大坂清飯家
所相市也且元宅中一日御止若有り十二日伏見清飯牧方リ
御馬ノ陣道ニ右伏見立形申刻御飯座

一 門府標門十九日年刻ヨリ有馬法平宅ニ成清飯礼孫標信
孫ノ所也及此京井仔之部也備事上信清飯軍陣上
之後又友重佐後立虎弟ノ所也徳家ノ所讀合存子清
飯産其夕ヨリ伏見中難波區

一 門廿日如大納之利家并依奉初元為使之也老生為難波者
在友重弟ノ所也大岡清飯界以後不經數月間モ之也
清飯徳家ノ所也我信ノ所也

一 自奉初元大納之利家福徳其也其正則徳次郎阿波也
其政右之將使アリ、之親ノ各ノ所也其也之縁也
清飯ノ所也石田ノ所也正宗也其也其也其也其也其也
町人ト云テ是任也其也其也其也其也其也其也其也其也
詮後ニ信也福徳ト徳次郎也其也其也其也其也其也其也其也
清飯ノ所也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
秀也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 右ノ所也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
輝政ノ所也福徳其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
伏見ノ所也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

有るは中別教令を奉法中藏固有未嘗何も実在也大書在
每夜門府公卿形誥ヲ拜之程又大書刑ヲ備在継若極塵
款元撤去何侍之是子仕事約古上一台殿一任、セ、シ、モ、身、
受、人、教、ヲ、集、情、請、ニ、由、也

一 流車行元仗ヲモ、ハ、夜、浦、前、中、納、之、書、家、宿、不、流、拉、家、合、有、
軍、保、定、度、終、テ、退、出、ニ、希、於、度、上、治、部、少、捕、二、成、リ、柳、我
等、人、教、ヲ、ハ、ア、出、シ、テ、リ、比、リ、以、ル、如、坊、田、軍、尉、リ、ハ、之、禮、
大、事、ノ、夜、ヲ、卒、忽、ト、仕、事、之、勿、疎、作、也、一、流、合、一、任、由、儀、リ、モ、扱
元、撤、去、事、ハ、お、上、リ、ニ、在、元、沙、法、後、日、有、之、事

一 墨田甲斐守長政と其情、大形流、流、味、方、如、元、元、教、
シ、リ、由、事

一 柳生信房事、是、ノ、又、奉、一、任、任、若、合、殿、之、元、後、後、カ、ロ、フ、リ、シ
羨、リ、ト、ト、テ、流、左、邊、方、一、遣、ニ、ケ、レ、ハ、右、邊、カ、換、扱、ニ、云、今、代、
松、永、ハ、明、智、如、キ、ノ、者、ハ、云、キ、ソ、ト、申、ケ、リ、其、儀、シ、之、流、リ、又、奉、
又、ノ、但、云、キ、シ、流、リ、ケ、レ、ハ、元、ト、今、時、世、ヲ、礼、ス、ヘ、キ、大、將、カ、有、之、事、
コ、ト、ケ、リ

一 同年、正月末、昔、代、リ、流、後、代、元、月、柳、永、式、ヲ、与、捕、為、組、既
上、洛、ノ、所、於、難、由、右、世、上、ノ、礼、ケ、ル、事、及、様、子、シ、承、唐、書、ヲ、日、継、テ
急、ア、伏、見、之、流、忌、式、ハ、礼、發、ノ、神、ニ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、
流、撤、去、事、ハ、自、古、祀、ニ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、
乃、代、官、カ、ラ、古、也、ニ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、由、テ、
侍、宗、能、為、大、改、大、以、保、十、兼、名、谷、川、七、九、其、以、外、也、代、安、也、上、
リ、ト、テ、流、次、ニ、テ、流、初、ノ、儀、ヲ、形、一、流、無、伏、見、之、事、也、仕、ト、テ
大、津、山、科、院、翻、根、石、之、流、次、ノ、事、也、其、事、坊、門、モ、不、切

邊にタリ上ニハ物助交更カナトテアキレケルトソ

一 本年依渡者河前在坐今般ノお入ノ栞子ヒテ取知在渡淨心ハ
為トナシ上ニハ之程ハ不道ノ由上ニ言ナリケレハ其法席ヨリ也
淨心カ不來對面ノ時家康云トハ此所法入現切也如ヤト
為トナシト唯今ハマサル人ヒテ吾等式ヲ涉ス捨テ取知今ヨリ
由中比時依渡者ノ栞子ハ九枚ノ由根ヲハ出渡シ今ノヤト
ケレハ其後ハナシト中比時法年來ノ涉シ迄言ナリ出渡安ん
事ト涉シ交更ノ事サアラハ我ホ依テヘシトテ依渡者別渡
日道門府栞ハ其由中ニハ何日其方此所少身ヲ迷惑ノ
時分家助一様ニテ出シテ我ホ行先更ハシ忌止大岡法化
界ノ篇ヲ栞中由結シテ石田治ヲ補サヘ八十倍ス其ヨリ
告知セ涉シ九ハ其由交更ノ事ナリ也ナリ其事
日來ノ好身ノアレハ一入涉言テ者トハ勢ノある者ト比作ノ付
淨心ハ九枚ノ栞子取知今言月供合申シ我知者ニテ
平伏ノ教行ノ法ニテ由神ノ神ヲホラレケルトシ

一 之後依渡者正信事長尾宗徳トシ其内侍方ハ此進ノ九枚ヲ
日允亮實ニ依テヒスニヤ飯田ノ後法款ト成

一 越前大岡ノ御遺言ニ年寄元來仍元ノ外ノ元ニテモ何リ
お入ニシテ時ハ生泊誰貴中村式ヲ補垣尾帯力等如舍
トシお渡下ニテ元報事ヲ海ニシテナラハ上一石所ニテ増テ明者
淨心在府垣尾帯力依テ是ノ信法ヨリハ秀忠云不攝淨心ハ
又帯力ハ内府公別ヲ涉シテ不井伊多ノ補テテ涉扱栞子
切シ得也言扱云依向ハ雅和或ア帯力取二人ニテ其栞事
ツツリ内府栞法理運ノ栞法ニナシ二月五日お入法栞事

お誂中山府利家依作あ方ノ涉相訂シハ帯カシテ
一 日年ノ二月廿九日加賀ノ大納言利家伊宿病中後大坂府利家
為清見巨伏尺ノ由也ナリ付家康云モ小舟ヲ遣テ家康所清
於彼也宿氣ナト涉病トカリスル中ニ涉リ再テ家康故也利家
為妻ト涉入有テ物休是信テ付方ノ入申人由ニ作ル云
也、之業ニ比府ノ府利家之由故也利家ト云々下
ニテ一舟ヨリ揚言物ニテ府利家ト云々也利家ト云々モ
涉相見事更ナト家康ノ側ヲ寄行ラシト道也利家ト云々モ
相識シテ是ハ家康云涉也性元信ト云々也府利家ト
四月座涉お伴元ト云々也性元信ト云々也府利家ト
時大納言及家康ノ神谷信茂ト云々也府利家ト云々也
越中書九京更ナト六次ノ涉座更ト云々也三人ト云々也

府大納言及門府利家依作あ方ノ涉相訂シハ帯カシテ
一 日年ノ二月廿九日加賀ノ大納言利家伊宿病中後大坂府利家
為清見巨伏尺ノ由也ナリ付家康云モ小舟ヲ遣テ家康所清
於彼也宿氣ナト涉病トカリスル中ニ涉リ再テ家康故也利家
為妻ト涉入有テ物休是信テ付方ノ入申人由ニ作ル云
也、之業ニ比府ノ府利家之由故也利家ト云々下
ニテ一舟ヨリ揚言物ニテ府利家ト云々也利家ト云々モ
涉相見事更ナト家康ノ側ヲ寄行ラシト道也利家ト云々モ
相識シテ是ハ家康云涉也性元信ト云々也府利家ト
四月座涉お伴元ト云々也性元信ト云々也府利家ト
時大納言及家康ノ神谷信茂ト云々也府利家ト云々也
越中書九京更ナト六次ノ涉座更ト云々也三人ト云々也

及申入宛書ありて請ふ事と見ゆ
合意ニテ加敷言計以テ決断
種子トハ後知ル事

一 今更後門府極向後
利發ノ老後格清ニ
一月年二月十日
大納言左衛門尉
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

一 高丸ノ中
高丸ノ中
高丸ノ中

ニ其親ノ事乃其以テ下行トハ取ルルニ其後其ノ事皆
明シヤ何モ正出スルコトナリ

一 其日伏見ノ九段座ノ御父ノ柳原式ヲ少輔組尾止跡ニ夫
井伊多クカ捕是又組尾供奉シ

一 同年三月二日、加賀大納言利家ノ題去テ其後同治社
カ捕ラテ討テテカ反テ計以テ法正長島城申カ其具法形其更
去長福治其更正則是田甲斐等カ改テ其大者小者一被
如テ右ノ伏見大坂事カ、隆キナリニ成カ形出シテ其我
其更ニ門籠カ其更ニ流竹面更ニ伏見トテ其ノ取テ其更ニ
其更ニ治ラカ捕其更ニ其更ニ治ラカ捕ラカ其更ニ其更ニ
伏見同治社ニテ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ
其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ其更ニ

一 其日伏見ノ九段座ノ御父ノ柳原式ヲ少輔組尾止跡ニ夫
井伊多クカ捕是又組尾供奉シ

一 同治社ノ御父ノ柳原式ヲ少輔組尾止跡ニ夫
井伊多クカ捕是又組尾供奉シ

辛酉二月九日 壬戌九月事

一 寺園所建之寺奉能一有是也。テ内府云、四月十日、
所社冬之并諸大名止、諸寺奉能一家康云、以政別照言
此以門之、一教元天台し、湯浅中社多、九月事、并沙名産
法人、運庄云、云々ト云、

一 同日、御目付元言、難テ、後之事、如テ、能伏見、御城別照言
云々、お上、并中、自筆、毛利、信勢、与一方、治ア、お捕カ、堀ノ、福永
右馬、物次、右田、元洋、与、寛和、泉、与、然、若、内、宛、分、之、其、関、子、ハ
徳、長、院、云、以、沙、法、此、淨、正、大、願、増、田、島、村、吉、永、大、宛、お、捕、也、
福、永、復、終、テ、右、福、永、右、馬、物、次、角、ナリ、依、何、モ、沙、改、易
之、何、村、九、世、依、別、記、云、云々ト云、

一 九月、大、湯、吉、嘉、隆、卜、福、永、宛、人、卜、淨、福、ノ、後、有、此、為、是、之、日、以

一 内府云、お重、湯、ノ、湯、嘉、村、右、坂、九月、二、日、七、日、比、之、後、法、元、在、
之、別、法、此、淨、正、大、願、増、田、島、村、吉、永、大、宛、お、捕、也、
後、ヲ、増、田、島、村、吉、永、大、宛、お、捕、也、上、門、之、下、上、付、テ、之、後、
お、重、湯、云、云、之、後、元、在、之、湯、法、合、有、テ、沙、淨、元、ノ、坂、也、
増、田、島、永、湯、ノ、永、上、湯、お、捕、也、元、在、之、ト、也、云々、内、府、云、云、
之、ケル、カ、重、湯、ノ、湯、礼、ハ、右、坂、也、云々、御、城、之、御、出、城、ノ、長、法、元

一 大、湯、吉、永、湯、ノ、湯、法、此、淨、正、大、願、増、田、島、村、吉、永、大、宛、お、捕、也、
湯、法、元、湯、團、之、奉、永、秀、教、之、并、御、母、堂、上、御、出、法、元、
間、之、小、姓、元、年、奉、元、湯、法、此、淨、正、大、願、増、田、島、村、吉、永、大、宛、お、捕、也、
一 伏見、之、御、城、ハ、秀、康、云、云、之、湯、法、元、在、之、ト、也、
一 其、右、坂、一、者、湯、法、元、在、之、ト、也、
十日、之、奉、明、之、右、坂、湯、法、元、在、之、ト、也、九月、十日、之、湯、法、元、在、之、ト、也、

一 伏見、之、御、城、ハ、秀、康、云、云、之、湯、法、元、在、之、ト、也、
一 其、右、坂、一、者、湯、法、元、在、之、ト、也、
十日、之、奉、明、之、右、坂、湯、法、元、在、之、ト、也、九月、十日、之、湯、法、元、在、之、ト、也、

本之江カ野末一カケテハ物取ナリ

一 増田大馬守尉右末大亮少輔ナリ北侍ニテ門府ニハ人後取死

一 伊藤之取ニナリ則西ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 凡ク三州去年始ニ北ノ軍ハ取取、通入ノヨリ九日也

一 伊藤右末大亮之弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 野為陣之用意ヲ首々、因茲丹波其弟島長重直等列ナリ

一 為取手取伊藤之弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 其弟島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 築田九郎ニテ為伊藤北侍、其弟島長重直ニ成之、年終ニ大取

一 紙ノ法ノ上ニ取、其弟島長重直ニ成之、年終ニ大取

一 一月年十月、社人伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 伊藤大取、西北取、其弟島長重直ニ成之、年終ニ大取

一 遊吾、其在出、彼京門、言語通斷、有哉、子乃不可也

一 可令、遠流、分、後、

一 十二月、取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

一 取、伊藤島長重直ノ弟、向ノ死ニ大廣間兵守ヲ建テ進上存也

坊に由り門府に由り式アツク河に於て六代ノ
年定む計以て号に参りルニ式ア、何トテ下リハテ不入院家ノ
事ヲ九持人九持、歎フケリ持シホシカ九者ト名ニ豆石志
門云、竹ヲ柳系ハツキマ石ヤ何モ一暇法モ石波ノ石、在下ハ
ト也刑ア、お捕は由リ取リ式ア、お捕シ九持、門河、石、若モ、門
石、心、門、モ、ソ、ア、ラ、メ、ム、サ、キ、心、中、ト、心、何、事、系、履、ニ、テ、教、ヲ
此、ル、事、ト、門、カ、ト、テ、奉、恨、腹、ヲ、立、テ、泣、ク、リ、シ、ト、心

一 長尾系猪事上落芥名義心流能所分ニ付法有ク、付
春成行系名書シ、分、津、一、セ、セ、セ、有、多、夢、石、何、如、片
登、シ、ニ、キ、ノ、由、法、定、ル、故、上、下、系、猪、取、法、ノ、用、ニ、シ、テ、
一 或時湯出ノ湯出ニテ所前、多合ル九中、心、何、中、心、分、
心、は、定、ヲ、ハ、世、リ、ニ、テ、カ、浮、列、ス、ル、ト、何、ト、ナ、ク、心、石、九、石、一、誰、ヤ
ラ、ン、名、ハ、志、タ、リ、御、法、言、ク、ト、キ、系、津、取、法、ヲ、ハ、ウ、カ、心、石、
心、は、定、ハ、サ、キ、カ、ト、申、作、何、ト、テ、九、持、リ、ソ、ト、門、河、言、ハ、時、取、法、
中、ハ、持、人、名、ハ、何、カ、九、持、人、名、ハ、何、カ、申、モ、理、カ、ト、是、リ、カ、
ア、ウ、ニ、両、方、ニ、致、ツ、四、持、ノ、事、ト、是、レ、系、猪、取、法、ノ、入、修、ヲ、モ、四、取、法、大
石、ヲ、モ、門、河、言、ハ、世、リ、ニ、テ、カ、浮、列、ス、ル、ト、何、ト、ナ、ク、心、石、九、石、一、誰、ヤ
立、テ、シ、テ、今、法、表、ハ、所、分、向、取、法、ハ、石、九、持、人、名、ハ、何、カ、
分、ニ、テ、ノ、所、出、馬、ハ、カ、リ、ノ、故、ト、ハ、頗、お、遠、在、ル、心、は、定、カ、ト、是、レ、
式、サ、ハ、サ、ル、ト、云、持、人、思、ヒ、心、何、ト、テ、心、ハ、定、カ、ト、是、レ、
石、九、持、人、名、ハ、何、カ、九、持、人、名、ハ、何、カ、
一 御法此等ノ如堂ノ芳春院在リ、六月十日、何分、伏、ス、テ、
何、分、テ、六、月、五、日、六、日、江、入、レ、石、九、持、人、
一 慶長六年庚子六月十六日、今、法、表、ハ、所、分、向、ト、ノ、所、進、奉、

伏見一日御降座十八日、於大津宰相左の膳ヲ至石
部、の志雲曉に、放水に御膳上度、長末大花お捕入子
石社を、しよと、り、右河、御膳物ツ、又子、下、長日、戌列中、
之計、石、ア、ア、四、五、有、テ、初、迎、し、関、北、院、に、通、り、儀、而、ツ
レ、ヨリ、四、日、等、御、降、座、在、家、ニ、テ、御、和、之、石、三、列、伏、久、侍、ニ、
田、中、玄、ア、お、捕、入、膳、ツ、た、と、明、り、於、三、列、在、田、池、田、之、爲、り、御、
之、上、膳、御、膳、四、止、宿、翌、日、ハ、湯、松、城、堀、尾、等、口、長、信、俊、等、
御、膳、ツ、し、上、中、泉、に、上、宿、治、ノ、口、中、心、ニ、テ、各、々、休、御、膳、ツ、
山、門、對、馬、と、し、上、膳、田、池、湯、翌、日、於、後、府、一、九、中、村、式、ア、お、捕、
倍、后、ノ、橋、田、門、膳、所、ニ、テ、御、膳、ツ、上、り、後、府、御、膳、ツ、日、這、地、子
之、キ、ハ、人、教、系、乃、是、々、法、解、こ、は、指、さ、テ、式、社、お、捕、入、筆、案、
録、レ、ラ、ハ、前、二、は、右、御、目、見、病、群、ツ、と、之、之、ニ、テ、御、膳、ツ、御、膳、
式、部、ハ、教、系、こ、は、後、ツ、押、拭、テ、右、類、ツ、汗、ヒ、シ、御、事、ツ、シ、
サ、ウ、ハ、見、ヘ、ケ、レ、氏、古、日、叶、子、ハ、滅、心、計、ト、相、之、と、云、モ、有、難、キ
御、之、云、レ、ト、テ、其、映、清、見、寺、ハ、泊、次、ノ、口、ハ、中、村、在、也、
お、泊、津、御、膳、ツ、上、り、世、不、ハ、右、御、渡、者、人、ハ、保、相、據、さ、と、外、為、
四、逆、系、と、七、月、二、日、ハ、江戸、ハ、也、
一、今、津、ハ、右、加、藤、上、方、ノ、人、名、小、名、を、述、く、し、右、不、ハ、之、序、ハ、右、
ハ、右、例、拂、京、式、社、お、捕、入、御、膳、ツ、
一、七、月、十、九、日、秀、忠、云、江、戸、ヲ、御、出、馬、
一、月、廿、一、日、門、府、橋、御、出、馬、其、映、清、ケ、井、ハ、止、其、共、一、身、お、り、
上、方、御、右、靜、中、御、御、ア、リ、は、一、日、
一、完、付、は、二、日、ハ、右、河、在、御、ハ、
小、山、懺、成、上、方、ノ、説、ツ、ハ、世、不、一、年、依、テ、守、都、お、り、御、
候、其、之、ハ、一、と、お、年、御、付、ら、人、名、并、御、御、光、瓦、悉、不、心、懺、
御、

一、今、津、ハ、右、加、藤、上、方、ノ、人、名、小、名、を、述、く、し、右、不、ハ、之、序、ハ、右、
ハ、右、例、拂、京、式、社、お、捕、入、御、膳、ツ、
一、七、月、十、九、日、秀、忠、云、江、戸、ヲ、御、出、馬、
一、月、廿、一、日、門、府、橋、御、出、馬、其、映、清、ケ、井、ハ、止、其、共、一、身、お、り、
上、方、御、右、靜、中、御、御、ア、リ、は、一、日、
一、完、付、は、二、日、ハ、右、河、在、御、ハ、
小、山、懺、成、上、方、ノ、説、ツ、ハ、世、不、一、年、依、テ、守、都、お、り、御、
候、其、之、ハ、一、と、お、年、御、付、ら、人、名、并、御、御、光、瓦、悉、不、心、懺、
御、

一 以時堀尾信俊等上山對馬の門後日海運筋面は塚
明りしより人の教りて河上流を堰て上と每人お遠也
於仰承對しき事

一 上り方右元伊橋並其上一流國は在道河津江雲ッ
以候に於て此の系勝の之以流候て又上り方伊橋等
有カト申尋時福治は馬等更治馬田甲斐等と伊徳永
治等何れ治一日先々上り方より更治等は一日下
此以陰交敷也仰分味ノ上流ラ上り方より有以更治後
定し事

一 堀尾常力も仰供て仕トテ越前ノ府中ヨリ在下河内
任日治ア方捕仕形不審、と思召より常力ハ府中ハ在序
仇和山ノ種子に社に於て之に信憑し仰供仕下河内之故
常力ハ府中ハ在政ルトテ於地程謝水野越等場及流振舞
之序、加賀ノ井津常力も兼書仕候が彼津常力も兼書仕候
ヲ之邊より常力死カ、ツテ、之身モ津子有リ也以て列
申、委し

一 上り方より更治府右元先之、流之、水考忠候、之、右官
城の番侍に候府より申召流の上流之、水考之、候如、山、原、
小山、中、十日、在、流、道、後、河、上、流、等、候、在、河、上、再、橋、之、上、九、候
昔、西、江、上、の、流、元、也、事

一 七月末候、堀尾城、堀田、右、兵、衛、尉、長、末、方、存、之、備、守、品、及、修、治、等
攻、下、堀、尾、城、に、當、り、右、兵、衛、尉、長、末、方、存、之、備、守、品、及、修、治、等
等、ノ、事、元、來、也、堀、尾、城、に、在、堀、尾、城、城、中、に、在、堀、尾、城、之、後、
橋、ナ、キ、也、堀、尾、カ、ケ、テ、コ、ソ、之、有、堀、尾、川、に、在、堀、尾、城、之、後、

此頃シカ共ニ方ニハリ朝終ニ落城由は色ニ松平之殿
度ニ切テ出討死ス大羽ノ忠ニテ大坂クギヤウニモラノセル由也
松平五九馬モ又討死ス丹ノ城ヲナレハ首ヲ斫ルニ競テ
る丸レス極ニト急テPニカ能クシケルニヤ歎ニハ備存馬
首ニ後出ルニ列ノ永京ノ内心ノ者Pキ子リ波落城ニ後ハ尾
清十郎流炮ノ者モ悉テウラ切付ルハハ澤尾モ後トラハラシ
於大坂沖成敗之上林竹ノ者モ流石ノ筆城ノ内北武士ノ向
落ト下等トナレハ及是頃トPルテ傷キ討死仕ルモ
討死ス且又乃伏スノ者モ加勢航前中納言及之政トトテ死
付テ攻サセ侍セ秀秋ハ若慮ハ伏見城門ハ薙テ城ヲ下持
ノ由達テP入報ニ門府ノ者モ下知ノハ討ヲ乃妻也ニテ入
る事ハ由上ニ

一 上方ノ諸將尾張清洲ニお集テム所出馬シお討ツル被越
飛助ノ由仗ニモ何レモソレニ在陣也ト云石川ノハ一ノ子ニモ
波波阜カ大心カ攻テ味方ノ旗指シ急度ニあるト之
ト云石川若シ仕換ニ後ノ合戦ハ容易ト云はれ方使
山崎ノ者も極時方ニ之由馬ノ由ニ何モト振井侍多ハ備
中務也備取ニトツト門法仕は依法仕ハPハ後監育ノ
由あるをテ為シラ在攻ト上ヘレ只ニ言上ニ軍旗若ク殿
家ト曰石川指者ヲモテト計マテP方身人有ケレハ委細得
其意ト下ヤ返カシ茂助ハ忠告ハタトヘハ加勢ニ由仗ニハ
能分別カ扱ハ武備若ナトシモ事ニラ若ホヲ由仗ニモ
其ハ忠告忽共ニ在攻中ニモ氣ノ諸人各丸Pサハヤト在
ぬ人モ指場ニ遠有シ之ハ指場後ノお達トハ別トハ分給

我ふ身は初事三丈五尺に尤作し我波は格下トテ感
きり加茂丸馬外軍田甲斐守山内馬守等と名第一日
此分列ナカリし度三箇目しに流流と事

一 中納言秀信は波阜城に籠城す見北の方後別へ池田重
輝改并二河遠江流河元流出流系と事為押し系之元
萩原重保人渡り越り第に福徳其を更か丸馬助
是田甲斐守系格下坊守生河流流と事我波等流例
お流し池田輝政と事一欲ト不都合ニテ押へ人教
為しに事一井守多し少補は更中務を補りい人
押へし人教ニテこの事一ある様ノ流流ハ不都合
働キ事ト事一似合テ流流ハ不都合ハ不都合
萩原オコシ流流ヲ絶テ押し事一ケリし時池田輝政は押
北方に押へ給う教度し下にお流し流流ハ不都合
流流ハ不都合流流ハ不都合流流ハ不都合流流ハ不都合
行向う堀尾信徳を見くる勢ヲ不知シ川下ニ候し
押返す時教軍ス時首教二百廿七討死之續テ二河遠江
流河元流流ハ不都合流流ハ不都合流流ハ不都合流流ハ不都合
近付し討し首若し教多し流流ハ不都合流流ハ不都合
波本遠丸馬外ト致テ四角八面に切おす之に教則收北ス
一 少方三ヶ所ニ於テ教軍ノ由ヲ重保ト事付分告事
之子孫成ルトテ福徳共外に流流ハ不都合流流ハ不都合
表ニ至テ波阜ノ案門共丸波阜山ノ後ヨリ本北ハカリ
寺ハ流流ハ不補加勢相系籠下流流ハ不都合流流ハ不都合
少補攻流流ハ不補加勢相系籠下流流ハ不都合流流ハ不都合

一 少方三ヶ所ニ於テ教軍ノ由ヲ重保ト事付分告事
之子孫成ルトテ福徳共外に流流ハ不都合流流ハ不都合
表ニ至テ波阜ノ案門共丸波阜山ノ後ヨリ本北ハカリ
寺ハ流流ハ不補加勢相系籠下流流ハ不都合流流ハ不都合
少補攻流流ハ不補加勢相系籠下流流ハ不都合流流ハ不都合

攻我軍忠ヲ勵スニ依テ終ニ中元ニ攻入能ハ天守、輝政子
ヨリ火ヲ擲テ焚シ中元ニナケ込ニ依テ一番京トスニ列遠瓦
後河元ニ波阜山ノ戦ニ兵退リ依テ直ニカウトニ至ル自
方板橋ノ少者ヲ加勢競来ル奇合以テ桑名田中ノ戦ニ
川ヲ越スニ跡ヲ慕シ法勢統テ川ヲ越スヲ見テ敵軍スル
知ラ進討ニ討死スル首級ニ級ニ及リ右ノ極子元ノ江多
信忠ハ川ノ畔ニ下馬シテ田中ニ社ニ統テ川ヲ越
討死スル首級ニ級ニ及リカウトヲ越シル田中ニ社ニ境
信忠トハ二級ニシテハ

一 日府極ハ九月一日ハ江戸ニ去者ヲ法例ニ二日留置ス
十日ハ信忠ハ長山ノ為ニ陣死セラレ元中ノ代ハ出
テハ旗本元ノ後ニ事

一 陣中ニ極子ヲ見テ執ヨリ池尻木戸一色ノ藪ニ逃地ヲ極
人殺シカハ如ス如ク申村式アガ補若元是ヨリ退ス如ク殺除
ニ川清洲地ノ故依テ式アガ補カ若野一色殺母竹田又信
守討死仕シヨリニ幸甚以門ノ恨次ニ名仕外ニ首一級ヲ持
御前ニ奉ルヨリテ寂和ニ元中ニ情首也是ハ味方ノ負
首トシ共ニ存ツルニ後ニ味方討シ在リハ御方ニ
首級ニ千六百ト云ワレヨリ御方存シハ味方守ハ御依テ
雄雄山笠ニ家井侍多クアト相多中務トシ在テ又人京味方
揚テ次第ニ依仁右美人被取ニ家乃味方ノ人殺ツニ
ナク川上ケル事

一 日十月日ノ宣判申、武者一人名ヲ申依ハ福清外島ノ事
色御目度方ニテ有る由法母ト中共事テハ在田ニ成方極

為退り方退付渡野一人合戦一仕り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り
河津渡り方ありしに旗は退り方ありしに旗は退り

一官代、西ノ方、河備之南宮山ノ為將三列並列後列九并
山ノ東ノ方、陣反其月田中急進ハ之、下京ノ信ニテ合戦
而始前、突ケ系、在陣事

附以附方垣押、堀尾信徳等ツレ信守道筋人教後並ニ
南宮川、吉川信正、河津清直等ツレ信守道筋人教後並ニ
為人質、系並ニ十番等トテ、お成信信等法以、大旗

得ル云、序中事

一南宮山ノ人教モ突ケ系ノ人教、加テ、跡、吉川廣家、利甲、斐守
在、未、方、務、カ、之、弁、カ、者、ニ、

一籠中、初、秀秋、ハ、從、軍、前、門、通、有、之、上方、極、子、ヲ、得、
小山、之、テ、江、進、キ、由、ニ、十、九、日、ニ、赤、坂、ヲ、出、陣、アリ、秀、秋、ハ、

上方ノ人教ヲ、後、有、テ、今日、裏、切、ヲ、有、キ、ト、軍、勢、解、有、之、
一、款、收、北、ノ、後、突、換、ノ、山、ノ、河、津、素、正、休、札、ノ、掛、河、橋、河、津、由、ツ、
家、河、津、雅、正、之、法、人、將、死、河、津、前、ノ、系、多、ク、ノ、極、子、尾、ノ、上、河、

福、島、正、則、ノ、上、今日、如、中、野、人、教、投、テ、河、津、河、津、自、
河、津、上、ノ、極、子、ノ、弱、故、ノ、由、換、付、有、ケ、リ、又、薩、摩、方、反、付、
河、津、有、之、極、子、ノ、弱、故、ノ、由、換、付、有、ケ、リ、又、薩、摩、方、反、付、

河、津、有、ケ、レ、ハ、カ、ス、午、ノ、由、ニ、河、津、上、ノ、極、子、ノ、弱、故、ノ、由、換、付、有、ケ、リ、又、薩、摩、方、反、付、
河、津、有、ケ、レ、ハ、カ、ス、午、ノ、由、ニ、河、津、上、ノ、極、子、ノ、弱、故、ノ、由、換、付、有、ケ、リ、又、薩、摩、方、反、付、
河、津、有、ケ、レ、ハ、カ、ス、午、ノ、由、ニ、河、津、上、ノ、極、子、ノ、弱、故、ノ、由、換、付、有、ケ、リ、又、薩、摩、方、反、付、

サキニノチヲカケテし多クタルシニ有る賢有テハ林札ヨリ御立
成玄部^ニハ^シアトハ行^ツワ^ッサレ掛^ク下^ノ御宗^ヲ御立
凡^ク自^ラホ^シ一^ハ部有^ル由^リ御^立上^ノ御^立今日^ノ合^戦吾^等
手^{ヨリ}御^立事^何成^リタ^リス^キタル^様下^ノ石^ノ地^ノ内^ニ
林^ノ竹^ハ掛^ルト^モ悔^ムト^モ上^ノ也^也其^次又^ハ御^立書^ノ原
一^ハ言^ハ若^ク侍^ト上^ニ意^シ以^テ出^立守^刀ノ^リ以^テハ^キ本^且守^寸
鞘^一入^テテ^テ括^クニ^テ兼^テと^シた^有ツ^テ山^長道^河津^上ノ
甲^秋ノ^明レ^様ヲ^リテ^御勝^時ヲ^上ノ^可成^ル上^ノ行^ハ御^立
テ^ニト^ニテ^ノ合^戦ハ^ハス^ルヘ^レル^云ハ^御立^ノ直^ク行^ハル^ノ
妻^子ヲ^テ欲^ク中^ニ進^マテ^可ク^ハ御^立書^ノ原^ニ以^テサ^レレ^ル
二^日ノ^内大^坂妻^子ヲ^何モ^ハ川^ノ渡^リ期^ノ勝^時下^ノ地^下
御^立書^ノ原^ヲ元^一日^ニ系^ノ由^ノ内^礼下^ノ御^立書^ノ原^ノ

実^檢ノ^山ハ^山出^立有^ル別^材越^後物^ヲ御^立書^ノ原^ニ是^中御^立書^ノ原^ノ

山^ハ金^ノ元^ノワ^ルノ^物物^ヲテ^包ミ^ル柳^ノ下^ノ御^立書^ノ原^ノ道^ニマ^ラ

系^統ノ^祖元^ノ十^人ノ^御立^書川^モ系^中御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

林^札ヨ^リ下^ノ第^一ノ^上躑^躑也^也御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

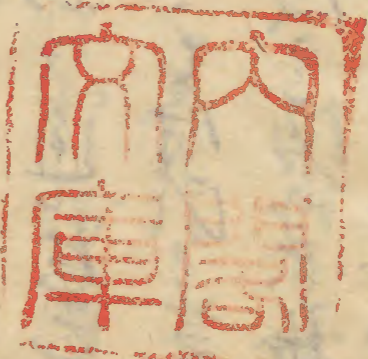
御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ御^立書^ノ原^ノ

本ノ、面

悉非諒子し、旬、昔、柳子ヲ、
古、御、実、換、看、者、少、存、ヲ
この反日幕中、以、付、之、を、初、山、関、ノ、左、川、臺、大、谷、刑、ア、少、補、
俾、反、小、卷、御、止、宿、存、也、以、上



東日記第二 慶長四ヨリ十五マテ

一大岡秀吉公御治世時ノ五大先ノ官録并立奉行

第一 内大臣源家康公者 御居城 武州江戸

武藏下総上総上野下野 伊豆相模 都七ヶ国也

其税二百五十万石 武列ハ一回余国ノ入組也且又東海道 次ニテ千石宛

第二 加賀大納言豊臣利家卿者加賀 能登越中

三ヶ国其税一百万石 但能及テ二十五万石能登侍従利政領ス是 若田陸田也石田三成ニ与セラル、ニ依テ進

退悉ル舎弟利長卿味方タルニ依リ関原ノ忠節御褒義ニ利政領ニ被下

第三 備前中納言豊臣秀家卿者備前 播磨美作

都三ヶ国其税七拾四万石

第四 會津中納言藤原景勝卿者奥列之内會津郡

伊達郡信史郡羽列之内庄内佐渡三郡其税四万石

第五安藝中納言大江輝元郷者 安藝周防長門
石見 因幡備後備中七ヶ国其税一百二十五万石
右者五大老之分

第一石田治部少輔三成

領近江国
佐和山城

或十五万石

第二浅野弾正少弼長政領甲斐国

或十一万四千石

第三堀田右衛門尉長盛領大和国

或拾万石

第四前田徳善院玄以法師領列内

或五万石

第五長束大藏大輔正家領列内

或五万石

右者五奉行之分

中老三人者

第一生駒雅樂頭親正 拾六万石

第二中村式部少輔一氏 拾四万石

第三堀尾帯刀吉晴 拾一万石

一徳善院玄以京都市司代并洛中洛外之雜事等

儀ヲ掌ケリ依有学刀也ト云々

一秀吉公七組ノ衆者

伊藤丹後守長實 早水甲斐守時之

堀田圖書助勝喜

野々村伊与守雅春 中嶋式部少輔氏種

真野豊後守頼包

青木民部少輔一之

以上七組

一慶長四年大岡秀吉公之廟建立ノ事移レ日本國ノ諸大名

思ヒニ堂社佛閣綺羅天ノ耀シ丹柱ノ葦表彫鑿巧ミシ

尺ニ穰ニタル幽宮香煙薫頭並々タル灯炷昼夜陸離メリ木食

上人經營ノリヲ勤メ墳墓ニ築キ其峰ニ祠祭ヲ構其麓ニ

樹塚陰天日ヲ蔽ヒ晴沙ニ石錦鋪敷拾モ三ニニ廟ノ粧
ト云ツヘヒト部ノ神職萩原為神主其外祢豆祝巫等ハ
淨衣烏帽子ノ刷ヒテ昼夜ヲ勤務ヤムトキナレ最初君ヨリ
一萬石ノ社領ヲ被附屬今上皇帝ノ勅額樓門ニ卧タリ大門
ヨリ樓門ノ間ニ六堵大名ノ石燈籠ヲ左右ニ立双テ枿ノ並木ヲ
其間ニ被植ケレ洛外オ一ノ賸也見ル人奇異ノ思ヒラナセリ
其市忌日ニ當テハ伶人舞樂ヲ奏シケレハ見物ノ壯觀也
妙法院市門跡ハ社ヲ掌シム毎月十八日ハ諸宗ノ僧侶ヲ
供養有テ法會ヲナレ玉フ同四月十八日ハ勅有テ豊國
大明神ト溢リナス其日ハ内府公シ始メ奉リ大小名悉ク恭詣
アリ豊國ヨリ直ニ内府ニ照高院市門主ハ入セラレテ天台
ヲ論義市社内ニ有テ市還テ奉

往ヨリ新田義貞公敵山ノ合戦ヲ負玉ヒテ小國ニ逃キ玉ヒ
ケル時日吉ノ社以テ我子孫ノ後代ニ至リ天下ノ武將備ヘ
サセ玉ヘト御祈誓有テ重代ノ御飯ヲ宝前ニ納メ玉フトニ
最今ノ内府ニハ其市苗裔ナリケレハ天台山ニ殊更御宗
教ナサレケルトナリ寔ニ其謂ニカ月ヲ追日ヲ重子ヲ繁栄ニ
玉フトハ是自ラナセル所ニ非ス偏ニ天ヨリ授ケ玉フ所ノ君子
ナリトソ云フヘリ

一右市法事終リ後諸人名、御殿下サレテリ加賀大和言利長
卿ハ其身若年トハ云ヘ凡加賀利家卿若君ノ御守リナリケ
レハ在大坂タルヘヒト人々之ヲ得ケルニサハナクメ是モ加賀一揆ノ
因ナレトテ御服結リ飯田有テ致シ因守ラルヘヒト御守也
是一向の府ノ市計也トテ人々憤リ思ヒケルトナリ然レ

内府云伏見、后住アリケリ此時前田住居院ト堀尾等カ
立奉行ノ内ナレ三人ノ中老流、申サレ伏見ノ御懸等
氏ノ勤昔苦勞ノ方也其ト云人ニテ印用トモ如何儀向々
内府云入ト奉テ何ト有ヘキヤト申テケレ各此由ヲ兼リ
是偏、家康云内意也トハ察シケレ何モ内府云ノ權威ニ
怨懼シテ尤思ヘシト同シケリ因茲堀尾生駒中村ニ使テ
右ニ趣シ内府云、申達シケレハ大悦喜有テ重テ德善院
参相ケレ快合ニテ家康云ノ御威光日、重置シテ朝陽
犯サス銀星自ラ光シ減ナレケル如ク也立奉行ヲ始ル家殊更
德善院ト帶刀カニハサナレ彼兩輩ハ秀頼云ノ印為ハ大
不忠ノ者トハ思ヒケレ内府云九思ノ人トモ内府云洋趨
スルト内府家人同前ノ如ク也右ノ通り云内府云印存ニ德

居院志ヲ感シ玉ヒテ彼各ノ罪重ヲ云出シ内府云原以極
モ先相相遠ナク安堵セリ堀尾殊勝レテ家ヲ起シ大名ト
成ケレ内府云人ハ瓜ハニキレケルトナン

一 加藤主計頭清正ト諸事家康云ノ属所ノトモ作隨
玉ヒケレ家康云ニモ神妙ナリト思召レ彼亦武勇天下光リ
渡リケレ水野和泉守忠重ノ娘ヲ前廉ヨリ御養女成サレ
シシ清正、遣ハサレケレ猶、シタシク成玉ヒテ心安カ入有ケ也

右 和泉守忠重ノ内府云ノ叔父也

一 大名刑アハ楠右衛門年未内府云所入税ノトナレ今度征
東ノ幕下ノ属セコトヲ新擧ナリケル木下山城守内府云
右ニ伏見ツエテ下リケルカ石田治アハ楠三成ト右衛門成童
古ヘヨリ秀吉云ノ丸右、有テ金蘭ノ心友ト云ハ村松景道ノ

深契タレハ暇清セントテ依知山、志秀ケル三成大、悦シテ
叮嚀、奔乞ニ扱思ヒ立ケル教道ノ有増シ察、語リケレハ
刑部暫シ不言メ御、申ケルハ是程ノ一大事シ兼日昔、
知セ玉ハ、謀畧ノ行モ有ヘキニ是非ナキ一也十カ九ツ勝
利有ヘカラスト云テ告継眉シ敏シカハ三成カ云御札を玉フ
大先味方ニ東、景勝依竹アリ西ハ名利時、亦此名
教約タリト語ル告継カ云御印、安トフ得ハ勝ニ一ツシノミ
知テ負ル期シ忘レリ今昔是ヲ問シ答ニカ諾答フヘシ夫武
士ノ志位、天下、於テ誰トツ言云家康也天下ノ勇士ヲ集
持タル誰ソ答曰家康也是悲有テ吾人思ヒ付タル誰
云ク家康也徳園ノ大小名氏思ヒ付タル誰ツ云家康ナリ
天下ノ武將、吾勝レテ其、石、誰リ云家康也此也此也
ケ条トメ御意ノ身、友キカ否ヤ此ヲ以テ見、モ貴方ノ
勝利ヲ得、一アウシト云三成カ云ヤトヨ九、非ス天下ノ
尊者、秀頼君也下トノ上ヲ犯サントス逆臣、家康也彼ハ不
忠ノ名アリ我ニ忠臣ノ名アリサアラハ何シ天下ノ人誰子不
忠ノ臣、よロシヤ我秀頼、武命ヲ蒙テ義云ヲ揚ルナラハ
天下ノ武將ナヒカスト云トアラシト云大谷カ云夫兵校之、以
計、其情、索云主孰道、爾將孰能、アル天地孰得
タル法令孰行、ハル兵衆孰強、キ士卒孰練、賞罰孰明
ナル此ヲハテ彼ヲ知リ己レヲ知テ勝負ヲ知、キ者也是古之
法也始ヨリ此大事ヲ吾、知ヒ玉リ、家康、伏見在、時討捕、
今関東、下シテ、鮮、莫ノ水ヲ得タル如クニテ三、百、万、石ノ大名ノ
猶更天下ノ名士ヲ集メ持レタリケレ、其方ナトノ後、身、上、テ

深契タレハ暇清セントテ依知山、志秀ケル三成大、悦シテ
叮嚀、奔乞ニ扱思ヒ立ケル教道ノ有増シ察、語リケレハ
刑部暫シ不言メ御、申ケルハ是程ノ一大事シ兼日昔、
知セ玉ハ、謀畧ノ行モ有ヘキニ是非ナキ一也十カ九ツ勝
利有ヘカラスト云テ告継眉シ敏シカハ三成カ云御札を玉フ
大先味方ニ東、景勝依竹アリ西ハ名利時、亦此名
教約タリト語ル告継カ云御印、安トフ得ハ勝ニ一ツシノミ
知テ負ル期シ忘レリ今昔是ヲ問シ答ニカ諾答フヘシ夫武
士ノ志位、天下、於テ誰トツ言云家康也天下ノ勇士ヲ集
持タル誰ソ答曰家康也是悲有テ吾人思ヒ付タル誰
云ク家康也徳園ノ大小名氏思ヒ付タル誰ツ云家康ナリ
天下ノ武將、吾勝レテ其、石、誰リ云家康也此也此也
ケ条トメ御意ノ身、友キカ否ヤ此ヲ以テ見、モ貴方ノ
勝利ヲ得、一アウシト云三成カ云ヤトヨ九、非ス天下ノ
尊者、秀頼君也下トノ上ヲ犯サントス逆臣、家康也彼ハ不
忠ノ名アリ我ニ忠臣ノ名アリサアラハ何シ天下ノ人誰子不
忠ノ臣、よロシヤ我秀頼、武命ヲ蒙テ義云ヲ揚ルナラハ
天下ノ武將ナヒカスト云トアラシト云大谷カ云夫兵校之、以
計、其情、索云主孰道、爾將孰能、アル天地孰得
タル法令孰行、ハル兵衆孰強、キ士卒孰練、賞罰孰明
ナル此ヲハテ彼ヲ知リ己レヲ知テ勝負ヲ知、キ者也是古之
法也始ヨリ此大事ヲ吾、知ヒ玉リ、家康、伏見在、時討捕、
今関東、下シテ、鮮、莫ノ水ヲ得タル如クニテ三、百、万、石ノ大名ノ
猶更天下ノ名士ヲ集メ持レタリケレ、其方ナトノ後、身、上、テ

何ッ同日と言コヤ前代未聞ノ武勇權威に備リ玉ヒニ大國ノ
御代ニサヘ此人シセシ玉フテ叶ヒ難クテ彼長久年合戦ノ後、
和睦也況ヤ今初君ノ不知ツテ家康ヲ割ヒテ存知ヨラス
若シ合戦ニ及フに寄合勢ノ評定區ニテ不知カス敗少
足モトハ早シ彼家康大名人持テ指サスヲモ成マシ跡
小身ノ時ヨリ士卒シ愛シ新参トテ氣ヲ阻ヒテ胎内ノ子モ
跡ヲ立其流シ減ラサテ憐慈深カリキ最長存程人等モ
コテ来レテ領シタヘ慈悲ホト先シ玉フ故、故侍に思付一
命ヲ捨ルテ塵沙ヨリモ輕クセリ攻テ討ヘキナラハ家康依テ
出馬有ラ石部止宿ノ時佐和山ヨリ、終七里ナリ宵ヨリ
人救ツツリ出シ夜中ニ石部着ツヘ其節此吉継モ見
送リノ様モテナレ彼宿マテ、カカリ相違定テ兩勢ニテ

其不意ツ討ハ討渡ス一有向湯モノ今中園、常松ノ名
將ノ跡ヲ葉テ出馬セ、味方長途ニテ、何トツ勝利アラ
喻ハ田畠ヲ打ニ下子ハ、能ク得テ打ケレ上子合テハ
案ニ相違シテ負ルコトク其道ヲ得タル人トハ智慧各列ナリ
武士道モ亦此ト云ヘ、誠ヲ箭、貴キ大将ト人、感ヒケリ
三成カ云ヒテ、御内ツニ執事カラス畏リ入トアレハ吉継言テ云
サレハトヨ某事、國疾ノ病アリテ眼ハ見ヘス人半分ノ身ナレハ用
立程ノ事ハナク、此ハ見捨テハ男道、爾レハ長義ノ重キ也
其上初君ノ命ト有カラハ一命ヲ奉ルナリ夫レキ一ノ謀アリ
秀頼、御使者トシテ慰方ノ口上アラハ家康出テ對面ス
ヘシ其時其使出カ、リテ刺殺スヨリ外ハ有ヘカラスソレモ
家康心遣ノ氣アラハ名代ヲ以テ、爾レヘシ若シヤ、今

是才一ノ謀ナリト此後治定ス右終テ三成カニク近年世ノ
中ノ変改ヲ多クシテ秀テ武切ノ法派人ヲおし抱至リサテハ
今日刑部及清規集入ヲサントテ右出テケリ先將九迫
備生後申ツ始トノ次ナク、洋福ス之来刑部ハ育ナレ右右
小性ラ瓦室ヲ叫セテツレク、何ツカヤハ啼ク、今報シ又カクシテ
二日佐和山ノ岸為セシ居城城前ノ敷野ニ候リケリ

其第堀尾等ノ吉晴ハ門府之令、依テ城前圍、執ケルカ
三列并卷ノ堀ニ水並和泉ノ忠重下等ノ年々睦年朋友ナリ
ケレ池鯉射ノ澤ニ向テ吉晴シ餐食セシト待ラケタリ
此時路以シテ等刀先生一加賀井治ハ市令令今ノ度は府ニ
清俊、其下ムル由ヲお語ケレ吉晴思ケルハ仁ハ日未右田ト
水真ノ中ナレ何トナク上ノ方候ノ一ツヲ尋子ト思シ路次和泉
吾シモテナサントテ出向トマツ幸ナリ此邊モ候ルセト云テ

八市也依テサントテ行ワレ比ハ七月九日ノ一ナレ、残暑
甚シカリケリ和泉守怡悦シテ戸障子打開カセ茶ノ湯ノ冷
タキル音和風ノ音ヲ含ミ空燒ノ香芬トシテ床ノ墨蹟砂
物見ル目モ涼シクイト川流ナリ左右ノ近所遠侍等列居ノ
次才觀、トノ堂ノタリ此忠重ノ父ハ水野右衛門才更忠政足

三列并卷ノ城ニタリ此忠政ノ母女ヲ徳川房忠印方嫁娶
御男子一人誕生アリ今ノ家康云是也房忠後世屬申ト右和
付別并卷ノ送ノ帰シ玉ニ又依テ其母女ヲ以テ和佐渡ノ家後
再縁有テ三子誕生セリ所謂松平源三郎勝後是松平源三郎勝後

二男松平因幡守康元是松平因幡守康元 三男松平陽成守定持是松平陽成守定持
号シ今右列松平ノ城ニシテ拾
五万石願シ玉フ

至徳園ノ任人加賀并赤八郎ト云々大剛ノ早ハサノ侍ニテ有
彼ニ三成ト加首ノ女ナリケレハカレヲ招キヨセテ一々次オラテ
ケリ活八郎カ云ク吾此以前太周ノ御前ヲ討シ時御辺ノ取
成ス以テ御免ヲ蒙リ唯然ル北厚恩を忘難ク仕給ス
今度一命ヲ奉ラニ一ツハ秀頼ニ忠節一ツハ貴不ハ
芳恩送ラト云ヒテ最安キトシ願書ス石田大イニ
悦テオラハ秀頼ニヨリノ慰問ノ御使トシテは人業向シ家
康ニ對面ノ時刺殺スルキ要細ニ合メケル赤八郎重テ
申ケルヤフハ世上勅證ナラハ有ハカラスル一尺此騒動ノ形カ
作ノ間先切ノ門府ナレバ對面ハ必定ナルヘト云三成カ云ク
家康出向ヒナクハ是非ナキトシ若由秀ヘキ使ヒアアラハ
偏執入ナリサアラハ子息ハ一國守護相違アルハカラスト云
一通ノ起請スラ申テ赤八郎カ目赤八郎ニ返シケレハ赤
八郎懐申シ宛ルト笑テ返去シヌサテ早速江戸ニ在ナリ
御使スルヒ入ケレハ案ノ如ク家康ノ御對面モナク刺一奏
者等モ有カナシテ帰シケレハ赤八郎カ徳荆ヲ決フテ
忙勢トアキレハテ唯ニ秋草枯ニシテ唯問フ人モナクテ
力及ビ消息ニテスラト飯リ登リニ事一

一 右水野信元ノ忠政死後ノ後嫡子下野守信元ハ信長ニ
門通有ルニ付家康ニトハ年来御不舎ナリ事ヨリ
赦免ニテ後ラセ玉ヘハ諸事御免カチナレハ年月ヲ
僅ルニ付テ赤八郎カ及ニ御遺恨深カリケレハ平定七五助
親吉ト名官控出ルニ事ト云合下申カ及ニ御遺恨深カリケレハ平定七五助
及所ノ所ハシレニ右女入走リ寄テ刺殺ス下野カ及ニ事

水邊遊幸時忠重後和泉守此忠重の家康云別心ナカリ
シカハ下野友ノ遺願ヲ承継ニ仰付事

一 右下野守殿是其附二歳成テ乳母懐抱ラ三列去井ノ
百姓と交ヘタリシカハ養育仕ルヲ出サレ去井甚ニ節名
字をラレ御小姓ニ在仕レケルカ稟性世ニ勝智徳有テ
寛仁ノ度量ナレハ後ニ去井大鶴以テ利勝ト名宗王ニ天
下ノ執權シヨトトリ玉フナレハ其技藝今ニ至テ驚異
セリ

一 右和泉守忠重賓客ノ對談談所ナク事早テ合膳時
ヲモテナレハ味ニ性ノ食毎ノ後酒ニ献通テ藍尾笑談
及ヘリ漸タ日斜ニ入相ノ秋鐘耳ノモトニヒケハ小性立
奉テ兼榻蒲^{カマ}進^{マシ}レケレハ客モ至モ沉醉シテ長眠ウツカリ
何^ニモナキ所^ヲ深^ク吊名^ヲ考^テ和泉守ヲ斬殺ス堀尾^ト得
タリト云ヨリ早ク眼指ヲ殺テ渡^シ合^ヒ少^ク猶豫^セハ深^ク
吊ヲ刺殺シケリ御是儀又事ナレハ和泉守殿是レハ
鎗ヲ私合テ座去^リ孔入^レケレハ燭燈^ヲ消^テ吹^息分
モサタカニ見エサリニ勝^子ヨリ^テ榻^ヲ扱^出ケル共^ニ光^リ
ニテ見ケレハ和泉守ト深^ク吊^ハ入^リ深^ク紅^ニ如^クニテ枕^ヲ
ナラヘテ川^ケリ家人等疑^フ不^レモナク是^ハ常^ノ酒^毎
余^リナルヘシトテ^テ子^毎扱^ツレテ^テ皆^晴切^テカ^ル堀^尾大^将
燭臺ヲ持テ信^ナカシ大^将怒^ニテ申^シケルハ^ハ狼^藉ニ^後
汝等^ニ族^ノ最^ニ況^ニテ我^ヲ恨^ル事^ナカレ我^カ等^カ主人^ノ
和泉守ヲハ^ハ流^シ吊^殺シタリ夫^レ皆^等ハ^ハ深^ク吊^ヲシ^仕
尚^タレト云ケレハ此時和泉守^ノ家^来流^ル吊^進出^テ

申極始ノヨリ亦ハハ名敷ラシキ人ナレト素ヨリツ元ナカ
リツルヲ御ホスナト判シケレハ此ノミツマリニケリ

一 吉晴モ教ケテ亦ハ低ヲカフムリ玉ヘハ常樂ニテ彼宅ヲ出ラシ
シカ和泉守教来ホテモ其ノ事ニ之レハ常カテ旅館マテ慕
行ケレハ吉晴申ケル吾等事モ教ケテ亦低ヲカフムリケレハ
疾ト貴生ニテ裁示下ルニ此ヲハ亦病をね成醫療
ヲ教入ヘシ程又彼時ニ治ヲモ名達者洞中ヘシ右ハ
之ニ詢ラレヒテ其由ヲサセ玉ヘト有ケレハ其意ヲ得タリト
皆シ詢リケリ其狀吉晴ハ我息ノ信徳守只氏長城並列
傍松門ヲ示レシ

一 和泉守ノ息ノ死カシテ言上又其旨をニ云ク堀尾常カ
者晴事遂ニ急ラ企テ又和泉守并加井亦命ヲ討ト
訴シケレハ門府公大御方立腹アリハサレテ命カ嫡子ナリケル
信徳守ヲ御成敗アラント怒ラ玉ヒケレハ秀忠公ハ信云ク
彼ハ勿少ヨリ悔禱ノ者ニテ申上後ナト好ムハ此在
ナキ筈ニテ以日又吉晴モ己カ嫡子ヲ捨テヨモ遂ニ信守
今一たび右ノはをサレヒヘカシテ信ラレケレハサラハトテ比田
三島尉輝政一御預ケノ

一 信列生年二十三也殆ルハ其母日又死掃方生ニテ云ク
加賀井亦命事遂ニ有テ和泉守ヲ刺殺シテ一キ早ク
死合テ常カコソ信ハ命ヲ討果ルニ信をノ仕振元常カ
和泉守ヲ討申タル由ハ速者藤相ノ仕合也ト申上ニ右ハ
門府公聞右サレ則テ常カ方南カテ御威ノ御使若アリ
日又信徳守ノ名ヲ以テハサレケレハ信列大に後

御礼トシテ秀忠ニ、氣は侍り花日ノ御一言生々世々
奉ラナル由感涙ヲ傳シ申シ上ケリ此時ヨソ汗ハカニ有トハ
人皆知レケリ

一 芦尾元九郎ト云ハ織田七三坊伝後ノ嫡子ナリ伝後亦元ノ
後元九郎流人ノ有ケルヲ及堂位傳者イタハリ至テ連シ
仇元ノ取合セカニ出サレ織田ニ水ト云ケリ今ノ元九郎其子
ナリ

一 古光ノ孫後醍醐天皇ノ大坂西ノ元ヲ逃去サレ永正後藤原
頼朝系三女中ヲ誘リテ大和路ヲサシテ返ケテ其子ハ
伏見ノ堀ニ入テ討死シテケリ後日、府公卿ニ云ク此後忠義
彼ニ女ニツキ、后ニナル所不届ナリトテ三千石ヲ与ヘ其
子佐重ニ馬ノ御切取ニ任仕レシカ後五百石ヲ與シケルト也
誠、其罪ナクシテ患難ヲ受ラレシ良モ前世ノノコトヤ有ラシ

一 慶長五年十月五日毛利輝元ノ所ニ至リテ國ノヲ滅シテ
レテ周防長門ノ兩國ニハリ懸列ノ廣治城ヲ改書セラレ
長門ノ萩ノ城ニ侍者ナリ

一 安藝備後ノ兩國ヲ福治ノ所ニ改書正則ニ

一 播磨國一曰ヲ池田ニ在リ輝政ノ

一 紀伊國一曰ヲ淡路ニ在リ其子長ノ

一 筑前國一曰ヲ黒田甲斐也者也、

一 筑後國一曰ヲ田中多郎大輔長正ノ

一 備後及他兩國ヲ筑前中納言秀秋ノ

一 少雲澄波ノ兩國ヲ堀尾常ノ古晴ノ

一 豊前國一曰及豊後白杵ヲ加細川越中者忠貞ノ

- 一 上依國一回シ山門對馬守一豊、
- 一 伯耆國一回ヲ中村一孝一忠、後伯耆守ト号
- 一 若狭國一回ヲ京極宰相ト号ス
- 一 丹波國一回ヲ系極御理亮ト号ス
- 一 飛騨國一回ヲ令敷法下、
- 一 能登國一回ヲ加列 并小松ト入智寺ヲ加ヘテ前田氏ト号ス
利長ニ
- 一 河内國松山ヲ加藤九馬助嘉明、
- 一 丹國今治ヲ友堂和泉ト号ス虎、
- 一 周幡國多氣池田海守ト号ス
- 一 丹波國高田ヲ徳永法下、
- 一 丹波國福知ト有馬玄蕃ト号ス氏、
- 一 仁德國神戶一柳監物ト号ス
- 一 越前國一回ヲ佐城三河守秀康、
- 一 尾張國一回ヲ徳川義康ト号ス忠右、
- 一 右ノ通ト号ス
- 一 慶長六年正月新門府家康ニ秀頼ト号ス湯島新威ト号ス
- 一 玉ヲ今日天下ノ牧伯門府ト号ス洋ニ奉リケリ
- 一 同年二月、清徳代ノ徳將高切比ヲ刻リテハラル
- 一 江列佐和山并伊多ヲ備出政ニ
- 一 勢列素名ト号ス中勢ヲ備出勝ニ
- 一 上総國小多志ト号ス中多甲斐ト号ス長相、
- 一 徳列加納ヲ奥平亮ト号ス信昌、
- 一 三列長治ト号ス中多志及中多志、

- 一 三列在良ッ中多進反由康後
- 一 貞徳大垣ッ石川長川寺康通
- 一 三列在岡ッ松平云善以敬清
- 一 遠列濱雲ッ松平内信正敬厚
- 一 三列掛川ッ松平内信正敬厚
- 一 遠列掛川ッ松平内信正敬厚
- 一 後列田中ッ酒井信房忠利
- 一 日玉府中内友之良ッ耐任成
- 一 日玉丹國寺天聖二帝云坊康宗
- 一 日玉沼津大久保治重忠佐
- 一 右ッ世ッ々若津斐ッ人へ玉
- 一 交長乙年三月廿七日秀教云控大納言任ッ玉ッ母之舟八

秀忠云控大納言任ッ玉ッ同廿九日秀忠云御弟門地日忠孝
侍従任ッ玉ッ

- 一 日年六月江尾信正湯城ヲ籠キ玉ヒ戸田九門一西守ラ
シメ玉フ
- 一 日年長尾云勝秀康ッ因ッテ降ス前球ヲ宥メラレ
七月廿日云勝入洛
- 一 日年八月廿日云勝合津百石ヲ減シ糸浜ヲ捨テ石
被下
- 一 日年云勝上ヶ地合津ニテ捨テ石蒲生云勝初ノ下
- 一 日年云勝九月寺願ニ石宛曆寺ノ御寄附也
- 一 日年十月社願一石宛國廟不レ御寄附セラル
- 一 日年十月社願一石宛國廟不レ御寄附セラル

一 同年月月被命為新羅并加友部等令ノ氣威掌ラ云
一 同年十二月廿八日野別守部宮於拾五石園平入稻之
家局被下

一 同年九月十九日友部文提寫之生勅云 足好壽院ノ復シ
定家十三世孫

一 同年七年正月六日大樹秀忠之從一位叙シ玉フ

一 同年二月御并侍多ノ補立政卒云 四十二歳
徳隆

一 同年四月十日薩上ノ大隅友園安堵御下 治平
義久

一 同年五月八日依竹右衛門義重等陸於石ノ城ニ御
列秋田郡於於一石ヲ被下

一 同年六月伏見ノ城經始ス日十一日ニ本ノ上野分正統ヲ以テ
南都ノ宮藏シ關シ勅使勅諭寺堂ニ廣橋經光柳原
光光勅ヲ奉テ復コレヲ封ス

一 同年十月十八日第門秀秋逝去九二歳

一 同年十一月武田信吉等信水戸ノ賜ヲ 代君 足田母堂ノ

代ヲお頼トス

一 同年十二月廿八日治津忠恒事家以下改ム 伏見、未臨ノ
乙、津湯

一 同年長八年正月甲列シ義利ノ賜 後義直下改是尾法大納言

一 同年二月六日備前國ヲ池田輝政ニ加一給リ任列シ表右邊

左邊忠政ノ賜 九信列川中
治、唐 又川中治ヲ、松平上総介忠輝

玉フ 九ハ下総佐倉ヲ
成シ玉フ

一 同年月月十二日門府ニ征夷將軍任シ玉ヒ右大臣叙セラレ

三河守秀康參議任シ玉フ

一 同年四月廿二日秀賴之門大臣任シ玉フ

一 同年七月廿八日秀賴之、秀忠之ノ娘若ヲ嫁シ玉フ 天樹院

此時大久保相持忠隣宗樂、從カフ法皇元系天皇を以テ
秀頼より宗樂ノ逆ヒトス

一 日年九月十日武田信吉卒去ニ

一 日年十一月七日秀忠云右邊忠大右馬寮察御監ヲ兼玉フ

同日廿五日右左將一賜フ後、勅宣ト改是紀傳大納言也
南院院名ト号

一 慶長九年七月十七日竹中氏君以城降後足家史云

一 日年十二月十九日女御始宮ヲ改後シ玉フ

一 慶長十年四月將軍ノ任ヲ秀忠云、与奪シ玉フ、日年十二日

秀頼云右大臣ニ任シ玉フ、日年十六日秀忠云征夷大將軍任シ玉フ

正二位門大臣ニ叙セラル、同日ニ河守秀康、郷中納言ニ任シ

從三位、叙セラル、薩摩守忠吉、大申物ニ任シ、從三位、叙セラル

上總守忠輝、少将ニ任シ、從四位下、叙セラル

一 日年十二月十五日、南滿洲使ハ大將遣、一勅、大内海

出ス、今ニシテ其心ナリ

一 慶長十一年二月武列江戸、大都城徑營ニ玉フ、足右ノ謙倉

准火トス

一 日年十月十四日、藤原氏ヲ補康政卒去、辛九

一 日年八月十日、義利右衛門督任、從四位下、叙ス

是尾張大納言義忠、口ノ由事、同日勅宣、常陸公任、從位

位下、勅宣、紀伊大納言及由事

一 日年、和親信宿松雲生、勅宣、和清フ

一 日年八月廿二日、城守中丸新ナル大樹云、福流

一 日年、日月、聖烈ノ由妻、九島、督、勅宣、房、給フ、是水戸、中納言

一 今日、徳園、牧伯、命、禁裡、白面、右、号、云、秀康、心、可ル

一 慶長十二年正月、院傳ヲ集メテ、後府ノ城ヲ經營ス
 一 同年、朝鮮國王ニ使ヲ使メ來聘ス
 一 同年二月五日、下野守忠孝卒去北ハ足藩守也
 一 同年四月廿三日、右衛門督義利、甲斐國ヲ恃メ、尾張ヲ賜フ
 一 同年五月廿三日、尾列大守、城ヲ平岩ニ計ル、親者ニ賜フ
 一 同年十月四日、和子ノ城ヲ破テ、伊豫、是女院御所ニ
 一 慶長十三年大織冠ノ像、彼烈ス、年シヨクハ會
 一 同年三月十三日、後府城新營ス、是四捕正ニ付、上ニ付
 一 同十四年二月廿三日、津家ノ名、船ヲ琉球國ニ渡ス
 一 是ヲ征セント欲ス、名命ニ依テ、大津、徳島ノ有テ、我ノ口、
 家久ノ名、那霸ノ津、到テ、琉球人ト戦テ、一、二、日、遂ニ、
 山王ヲ虜ニス

一 同年五月十一日、松平仙若者、一忠卒去廿歲中村式部左衛門
 一 氏ノ男也、今子ナク、斷絶ス
 一 同年三月、形月出ツ、浦深スル、一食ノ由
 一 同年七月七日、家久、琉球國ヲ征スルヲ、賞メ、別彼國ヲ賜フ
 一 同年十二月九日、有テ、彼、狸、美、正、純、カ、婿、男、在、妻、仇、也、純、
 命メ、蕃船ヲ、長崎ノ海上ニ、カクルヲ、海底ニ、沈ム
 一 同年四月、後列、遠列ニ、テ、廿、十、万、石、シ、常、陸、公、賴、宣、邦、賜、
 同月、常列、水戸ニ、廿、八、万、石、ヲ、賜、督、教、房、以、賜、
 一 同年、初テ、徳、大、名、ヲ、征、院、人、シ、江、府、一、段、城、玉、ヲ、ト、
 一 同年、忠、後、關、玉、越、後、國、一、回、シ、松、平、上、院、分、忠、輝、賜、
 一 同年、亦、小、院、列、牧、命、ノ、尾、列、名、漢、卷、下、丹、波、龜、山、城、ヲ、
 築、シ、ト、シ、玉、ヲ、龜、山、ヲ、ハ、邑、部、門、悟、心、名、登、守、ラ、シ、ム

一 慶長十五年七月十九日伯列ヲ刻ラカ及ル其ノ厨赤景ヲ揚
中紀也正統園長門守ニ賜フ

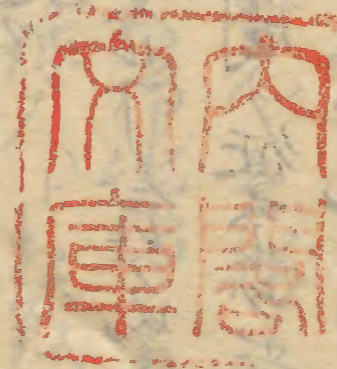
一 同年月廿七日龜山城ヲ松平ノ統也忠明賜フ

一 同年月八日治津家ノ始ヲ琉球ノ國王シノ屬ニ後府
来ラ云ニ洋福ス

一 同年月九月廿二日大佛殿ノ柱ニアリ者朽云ノ再具也

一 同年月十月九日後府城厨焼失ス

一 同年月十月十八日申勢之浦志勝卒云 年三十三



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

